

冬ノ六表

かゝる世に影〈かげ〉もかはらですむ月を

みるわか身さへうらめしきかな

東〈あづま〉のかたさまへ行ほとに遠江国天龍〈とうたうみのくにてんりう〉

のわたりにまかりつきて舟〈ふね〉に乗〈のり〉たれは

所なしおりよと鞭〈むち〉をもつてうつほどに

かしらわれ血〈ち〉ながれてなん西行うちわ

らひてうれふる色もみえでおりけるを

みてともなる法師〈ほうし〉あながちになぎ

ければさればこそいひしが修行〈しゆぎやう〉するなら